



# 未来へ

埼玉県立川越高等学校  
進路通信「未来へ」特別号  
平成27年4月6日  
発行 進路指導部

## 川越高校に入学した諸君へ

新入生の諸君，入学おめでとう。ようこそ川越高校へ。諸君は中学校での勉強・生徒会活動・行事・部活動などに一生懸命取り組み，努力を重ねてきた結果，川越高校への入学を果たした。これから三年間，中学校までには経験したことのない環境で学ぶことになる。一緒に入学した400名は，県内35の市町村を中心に158の中学校からここに集まってきている。その一人一人が勉強はもとより，いろいろな面で才能を持っていることは，これから少しずつ実感していくことだろう。

その中で自分を鍛えるために必要なのは，よきライバルでありよき友人だ。諸君は全員が大学進学を考えていると思うが，一学期が始まりテストが近づくと，自分が一学年の中でどのくらいの位置にいるのかとても気になると思う。それは一人一人にとって大切な指標となるが，もっと大切なのは県内，さらには全国の高校の中で，400名全員が集団としていろいろなレベルを上げていくことだ。

## 「受験は団体戦」

「高校に入学したばかりで，また受験の話か」と思うかもしれないが，三年間は諸君が思っているより短い。特に密度の濃い川越高校の生活ではそう感じるはずだ。

川越高校では，特に三年生になると「受験は団体戦」ということばをよく聞く。厳しい大学受験を協力しあって乗り切ろうということだが，これには一・二年生のころから雰囲気を作っていく必要がある。たとえば，友人が勉強で苦労していたら，是非自分からアドバイスをしてあげて欲しい。さらに勉強以外でも，欠席や遅刻をするクラスメートがいたら，話しかけて欲しい。近くに何か困っている生徒がいたら，知らない人でも助けてあげて欲しい。一学年，さらに川越高校全体が，団体としていろいろな面で協力していこうという意識を持てたら，「団体戦」に勝ち抜くことは難しくはないだろう。

ある卒業生はこう書いている。

「川越高校に入学する人は，全員能力を持っている人だと思います。だから部活を引退してから伸びがものすごく大きいです。私は友達の勉強の伸びを見て危機感を覚え，引退後がんばれたと思います。良いライバルがたくさんいる学校が川高です。だから，考査，実力テストで入試より激しい戦いを繰り広げ，学校全体のレベルを上げ，そして個々の進路を切り拓いてください。これが団体戦だと思います。」

## 川越高校の目指すもの

川越高校は「目指す学校像」として，「県下有数の進学校としての期待に応えつつ，伝統ある自主自立の校風を継承・発展させ，グローバル化が進む社会の中でリーダーとなる進取の気性に富んだ良識ある人材を育成する」ことを目指している。そして，進路指導の目標としては次の三点を考えている。

- ① 教養を深め、社会の有為な形成者を育成する。
- ② 学習態度を確立させ、学力を向上させる。

③ 自らの個性に応じて将来の進路を選択させ、それを実現させる。

これらの目標を達成するために、今後、諸君に心がけて欲しいことは以下のとおりである。

- 1 早く就寝し、授業に集中できるように良好な体調を維持する。  
—川高の授業は冴えた頭で臨まないと消化できない—
- 2 配布される資料(学習プリント・課題・連絡書類など膨大な量)を整理して保管する。  
—整理しながら何が配られているか確認する習慣を付ける—
- 3 川高生としてふさわしい教養豊かな生活を送る。(新聞・書物・芸術・科学に目を向けよう)  
—日常の娯楽レベルを上げることが進路実現・将来のためにも重要—

どれも当たり前のことのように感じるだろうが、当たり前のことを三年間貫きとおすのは、簡単なことではない。諸君の努力に期待したい。

## 「歴史に学ぶ」

江戸時代の末期、イギリスやロシアなどの外国船がたびたび日本にやってくるころ、ヨーロッパではナポレオンが大陸を席卷していた。その嵐の余波が落ち着こうとしていた19世紀の後半、ヨーロッパ全体を意のままに動かしたのは、プロイセンの大政治家オットー・フォン・ビスマルクだった。彼の言葉に

“Fools say they learn from experience; I prefer to learn from the experience of others.”

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」

というものがある。愚かな者は自分のせまい経験からのみ学んで行動する。しかし、賢い者は過去の人々が積み重ねた多くの成功・失敗の経験から教訓を学び取るという意味だ。諸君にとって中学校までのいろいろな経験はとても貴重であり、それを否定するものではないが、それに拘りすぎるとは諸君の今後の成長は覚束ない。

進路を考える上で「歴史に学ぶ」とは、諸君がいままで経験の中から、高校生として持続すべきは持続する一方で、実際に川高で3年間を過ごし受験を経た多くの先輩方の経験談に学ぶことだと思う。たとえば勉強に関して、去年、現役で東大に受かった先輩はこんなことを言っている。

「…受験を通じて感じたことは考えながら勉強することの大切さです。これは、問題からいかに多くを学び取るのかとも言え換えられるでしょう。僕がこの一年行った勉強は特に目新しいものはなく、周囲の人と同じようなものでした。…不合格になった人も僕と同じくらい、同じ教材を使って勉強していたのかも知れません。同じように勉強をしながら学力差が生まれてくる原因は、どれだけ考えながら勉強したかという事ではないかと僕は考えています。数学の問題が解けなかった、答えを見た、それで理解した気になるのではなく、その一歩先を目指す。どんな思考回路で解法を思いついたのか、計算を簡単にする方法はないか、別解はないか…など、その問題からどれだけ吸収できたか、それが思考力であり、学力を伸ばす秘訣であり、僕の学力がここまで伸びた理由だと考えています。」

この文章を読んで諸君はどう思うだろうか。先輩は、勉強は結果よりプロセスが大切だということを知っているわけだが、諸君が中学校までに経験した方法と比較してみるとよい。そこから諸君が何を取り入れるのか、取り入れないのかは、諸君一人一人に任されているのだ。